



松蔭 校長室だより

一校長から保護者の皆様へのメッセージですー

2024年 4月 9日 発行

松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井宣光

最後まで耐え忍ぶ者は救われる。 (マタイによる福音書 24:13 松蔭中学校高等学校 2024年度年間聖句)

始業式のメッセージ

新学年がスタートしました。中学の始業式では、これからの松蔭生活のなかで身に付けてほしいこととして、スクールモットー“Open Heart, Open Mind”の精神とダイバーシティ（多様性）理解を取り上げました。卒業後には、これらを実践できる女性となることを期待したいと思います。高校の始業式では、今年の文化祭のテーマでもある「film(映画)」を題材に、この1年の学校生活にエールを送りました。高校生へのメッセージ原稿を掲載します。

昨日、中学校と高等学校の入学式を行い、119名の新しい松蔭生を迎えました。本日は全員の始業式です。歓迎の意味を込めて大きな拍手を送りましょう。入学式では新入生に「クリスチャンであろうとなかろうと、中学校・高校生活を送るのに一番相応しい場所として神様があなたを松蔭に導いた」と話しました。あらためてこの場にいる皆さん全員に、松蔭はあなたの居場所として神様が導いてくれた学校であることをお伝えしておきたいと思います。

今日は、映画をテーマに話をしたいと思います。スティーブン・スピルバーグという映画監督の名前を聞いたことがあるでしょうか。彼の監督作品「ジョーズ」「ジュラシックパーク」のシリーズは何度見ても面白いですし、USJのアトラクションにもなっています。日本では昨年春に公開された「フェイブルマンズ」は、スピルバーグ監督自身をモデルにした映画です。主人公のサミー・フェイブルマン少年は、家族や周囲の人々との軋轢(あつれき)のなかで悩みつつも様々な経験をしながら成長し、映画監督になる夢を追い続ける、というストーリーです。ポスターにはキャッチコピー(宣伝文句)が書かれていて、とても素敵な文章だったので紹介します。それは「人生の出来事、その一つひとつが映画になった」という一文です。自分の人生をひとつの映画にたとえてみれば、人生で経験する全ての出来事が映画の1シーン1シーンとして意味があり、自分にとって価値あるものになる、と私は解釈しました。

私は今、皆さんの心の中を想像しています。高校入学生の皆さんは、先週のガイダンス、昨日の入学式を終えたばかりで新しい学校生活にまだ慣れていない状態で、緊張感をぬぐえず、無意識のうちにもストレスを抱えている人もおられるでしょうか。松蔭中学から内部進学の高1生と高2、高3の皆さんも、新クラス発表の後、短い朝礼の時間に新しい教室で新しいクラスメート、新しい担任の先生との出会いがありました。今後の人間関係づくりに不安を抱くことは当たり前だと思います。この教室で、このクラスで私は1年間、頑張れるのだろうか、マイナス志向に陥っている人はいないでしょうか。

そのような方々への私からのアドバイスは、自分の人生を映画だと考える事です。私は今、映画に出演していると勝手に考えちゃうことです。映画が90分くらいの長さだとすると、高校時代は、映画の前半、始まってまだ10分か15分くらいでしょうか。ストーリーはまだ本格的に展開していませんし、主人公と周囲の人間が色々なエピソードとともに登場し、時間の経過とともに映像が流れているといったところです。

「伏線回収」という言い方があります。映画には、無用なシーン、ストーリーに無関係なシーン一つもありません。どの場面も次のストーリーにつながったり、映画の結末に関係したりしているのです。前半のあのシーンは、最後に明かされるこの事実と関係していたのか。途中の1シーン1シーンがラストで「そういうことだったのか」と結びき、意味を持っていることが「伏線回収」です。

これからの1年、皆さんは様々な経験をします。笑う時、喜んでいる時ばかりではきっとありません。悔しくてた

まらなかったり、涙を流したりする場面もあるでしょう。皆さんよりもずっと長く生きている私が、自分の中学高校時代、その後の人生の記憶に残るシーンを振り返り、実感していることは、経験は必ず「伏線回収」される、ということです。皆さんの人生「映画」のラストシーンはずっとずっと先ですが、これからの1年の経験も、間違いなく映画のように「伏線回収」されるのです。

今月、文化祭がありますが、テーマは「film (映画)」です。文化祭が、松蔭生の様々なストーリー溢（あふ）れる、映画作品みたいになってほしいという思いを込めて、生徒会の役員が話し合っただけで決めたテーマだと聞いています。文化祭の準備や当日の経験も含めて、これからの皆さんの人生の出来事、その一つひとつが映画になります。主人公はもちろんあなた自身です。今年度の「映画」制作を心から応援しています。

(2024年4月9日 高校1学期始業式 校長式辞より)

春休み 校内点描



<4月に入ってもまだ五分咲きの桜>



<阪急電車のロングシート?廊下の長ベンチ>



<高校入学生対象の入学前補習>

今年度の役職者、新任の先生、学校運営方針など

<2024年度 松蔭中学校 松蔭高等学校 役職者(教科)>

- 校長: 浅井宣光 (社会) 中学副校長: 澤田知之 (社会) 高校副校長: 芳田克己 (国語)
- 中学校 DS主任 中1: 岳藤瑞枝 中2: 丹羽尚 (理科) 中3: 川中啓嗣 (数学)
 GS主任 篠原弘樹 (英語)
- 高等学校 LSコース主任 高1: 若木浩幸 (社会) 高2: 花岡隆人 (理科)
 AAコース主任 蕨野光 (保体)
 GLコース主任 篠原弘樹
 高3学年主任: 長尾隆一 (英語)
- 校務部長等 チャプレン: 坪井智 (聖書) 宗教主事: 大園典子 (国語) 教務部長: 大槻泰史 (理科)
 生徒部長: 上原美由紀 (国語) 総務部長: 吉川祐子 (数学) 進路指導部長: 中川雅博 (数学)
 入試広報室長: 小林裕典 (数学) マルチメディア委員会: 丹羽尚 特別支援委員会: 岳藤瑞枝
- 事務室 事務長: 内海良介 事務長補佐: 平田健二 事務次長: 岡田知子

*今年度着任された教職員(教科・所属)です。よろしくお願ひします。

- 阪田昌樹(さかたまさき)先生(英語科・高校AA) 北垣一朗(きたがきいちろう)先生(理科・非常勤)
- 小林雅美(こばやしまさみ)先生(英語科・非常勤) 吉野健司(よしのけんじ)先生(社会科・非常勤)
- 杉本宏先生(音楽科再任用 高1) 永井晃先生(英語科再任用 中2)

学校運営方針及び生徒指導の重点については、年度初めの教職員会議で確認し、日常の教育活動に落とし込むことにしています。保護者の皆様のご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

<2024 年度学校運営方針>

- (1) ダイバーシティを認め合い、“Open Heart, Open Mind”の精神を实践する学級と学校づくり。
- (2) 自学自習の習慣をつくる学級と学校づくり。
- (3) 「いじめ」行為を許さず、人間関係を構築する力を育む学級と学校づくり。

<生徒指導の重点>

- (1) 適切な身だしなみ、立ち居振る舞い。
- (2) スマートフォン、デバイスの適切な利用の仕方と情報モラルの徹底。
- (3) 直接の言動やデジタル上の「いじめ」行為、嫌がらせ行為の予防、対応、再発防止。
- (4) 校内外での災害発生の際の安全確保と心構え（「大災害対応マニュアル」「緊急時情報入力フォーム」周知）